

●『詩経』を取り上げたいきさつ

『詩経』(西周～春秋)

○『楚辞』(戦国末期)

311 篇 (6 篇 題名のみ) 叙事詩の部分

風 : 15 國風 - - - - 各国の歌謡

○『万葉集』

雅 : 大雅と小雅 - - - 政治・戦争・分封・儀礼

頌 : 周頌・魯頌・商頌 - - - 宗廟の樂歌・祭祀

○ 3 家詩 (魯詩=申培公 韓詩=韓嬰 齊詩=袁固生) が衰えて、後漢時代に毛亨、毛萇らによる『毛詩』が成立。これが現在の『詩経』

○毛伝

○鄭箋(後漢・鄭玄)

○孔疏 (唐・孔穎達)

○集伝 (宋・朱熹)

●『詩経』に見える農事詩

風 : 豳風 七月篇

小雅 : 楚茨篇 信南山篇 甫田篇 大田篇

周頌 : 臣工篇 噫嘻篇 豊年篇 良耜篇 載芟篇

〈詩序〉

臣工 : 諸侯助祭遣於廟

噫嘻 : 春夏祈穀于上帝也

豊年 : 秋冬報也

良耜 : 秋報社稷也

載芟 : 春籍田而祈社稷

藤田 忠 先生 プロフィール

一九四二年大阪府生。

神戸大学卒業、大阪市立大学大学院文学研究科（博士課程）単位修得退学。浪速学園高校、柏原高校の非常勤講師を経て、一九七七年より国士舘大学文学部に勤務、現在に至る。

専門は中国古代史。紀元前一一世紀（西周）より紀元後二・三世紀（漢）までを研究の対象にする。主として文献史料を中心に、時には簡牘史料等も使用する。

【四年生は卒論があるのでそう言う訳にはいかないが、三年生には余り難しい史料を用いず、漢文史料に見える出来事を、現代社会の出来事にたとえて理解させるように努め、学生が楽しく漢文を読むことが出来るように心がけている。うまくいっているかどうかは学生が判断することである。時代や地域は違っていて東洋史を四年間学んだ学生たちですので、連絡を密にして、個人的なメール交換で国内外在住の卒業生と連絡しあうだけでなく、東洋史のオリジナルサイト「国士舘大学東洋史研究『私』室非公式会議室」を通じて、こちらからは大学の情報を発信し、彼らの現状を知らせて貰っている。また、卒業生同士もお互いの情報交換をしている。そして、時には一杯の会をもち楽しんでいく。】

（国士舘大学文学部『樹人』平成一九年度版一一五頁より）